

2018年度公益社団法人日本臨床細胞学会事業報告

1. 臨床細胞学に関する学術研究の推進並びに学術集会の開催

① 学術集会等を通じた研究・教育の普及および広報

- 1) 第59回(2018年)春期大会 齋藤豪大会長
会期:2018年6月1日(金)~3日(日)
会場:ニトリ文化ホール
- 2) 第57回(2018年)秋期大会 中村直哉大会長
会期:2018年11月17日(土)~18日(日)
会場:パシフィコ横浜

② 班研究活動への助成による学術研究

2018年度の班研究課題を公募し、6題の応募があった。学術委員会選考会にて審議した結果、樋口佳代子氏より応募された「唾液腺細胞診ミラノシステムの有用性を検証する先駆的な多施設共同研究」が採用された。

③ 学会研究活動

「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」、「子宮頸癌疑い患者及び検診受診者を対象としたLC-1000の有用性に関する臨床試験」を行った。

④ 学会賞・技師賞・最優秀論文賞の授与およびその論文発表

学会賞(応募者1名):根本 則道

技師賞・学術部門(応募者5名):大金 直樹

技師賞・功労部門(応募者2名):田上 稔

最優秀論文賞(応募者 和文1名・英文2名):

【和文論文】

著者:梅澤敬氏(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター病院病理部)

論文タイトル:BD シュアパスTM法で高度扁平上皮内病変と評価した250例の hyperchromatic crowded cell groups の出現頻度と細胞診断上の意義

【英文論文】

著者:鈴木 彩菜氏(隈病院)

論文タイトル:Identification of Cytological Features Distinguishing Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma from Reactive Lymphoid Proliferation Using Thyroid Liquid-Based Cytology

2. 臨床細胞学に関する教育普及事業

① 講習会およびセミナーの開催

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第127回細胞検査士養成講習会	2018年7月2日(月) ～14日(土)	東京医学技術専門学校 伊藤 仁
第43回細胞診断学セミナー	2018年8月9日(木) ～12日(日)	東京医学技術専門学校 教育委員長
第75回細胞検査士教育セミナー	2018年8月25日(土) ～26日(日)	パシフィコ横浜メインホール 加藤 拓
第76回細胞検査士教育セミナー	2018年9月8日(土) ～9日(日)	アクロス福岡イベントホール 阿部 英二
第76回細胞検査士ワークショップ	2018年7月21日(土) ～22日(日)	日本医科大学 小松 京子
第77回細胞検査士ワークショップ	2019年2月16日(土) ～17日(日)	広島大学 小川 勝成

3. 臨床細胞学に関する渉外・広報事業

- ① 診療報酬改定に係る活動を行った。
- ② 子宮の日：都道府県にて子宮頸がん検診推進活動を行った。
- ③ ホームページやメールを通じての広報活動を行った。
- ④ 関連他団体との連携を行った。

4. 臨床細胞学に関する細胞診専門医並びに細胞検査士の資格認定、更新に関する事業

① 細胞診専門医、細胞検査士の資格認定者数、資格更新者数

- 1) 2018年度細胞診専門医
 - ・資格認定者数 126名
 - ・資格更新者数 665名
- 2) 2018年度細胞検査士
 - ・資格認定者数 270名(内学生受験合格者48名)
 - ・資格更新者数 2,033名

② 教育研修指導医の資格認定

- 1) 2018年度教育研修指導医の認定者数 88名
- 2) 2018年度教育研修指導医の資格更新者数 285名

5. 細胞診断の質を維持、向上させるための施設認定、研修に関する事業
 - ① 細胞診を用いた検診等を実施する団体等への施設認定、細胞診専門医を育成するための教育研修施設認定
 - 1) 2018年度施設認定
 - ・ 新規施設認定 12 施設
 - ・ 総認定施設数 854 施設
 - ・ 認定資格更新 48 施設
 - 2) 2018年度教育研修施設認定
 - ・ 新規施設認定 10 施設
 - ・ 総認定施設数 326 施設
 - ・ 認定資格更新 238 施設
 - ② 第7回コントロールサーベイ（外部精度管理）を実施した。
参加施設 815 施設
6. その他前条の目的を達成するために必要な事業
 - ① 国際細胞学会（IAC）の資格認定や連携（合同シンポジウムの開催など）
 - 1) 2018年度 IAC 資格更新 100 名
試験は2018年度は実施無し
 - ② 肺がん学会とのワーキンググループ
 - 1) 日本肺癌学会・日本臨床細胞学会による2学会合同委員会を行った。
 - ③ 地域連携の活動を行った
 - ④ 国際交流事業（日韓、日-タイとの共催事業、豪州との人事交流、カンボジアへの支援を実施）を行った。